

// 会社の概要 (平成26年5月31日現在)

商号 アルテック株式会社
設立年月日 昭和51年5月15日
資本金 5,527,829千円
従業員数 130名 (グループ全体533名)
所在地 東京都中央区入船二丁目1番1号
住友入船ビル2階

// 役員 (平成26年5月31日現在)

代表取締役社長 張 能 徳 博
取締役専務執行役員 瀧 川 賢 一
取締役執行役員 阪 口 則 之
取締役執行役員 陶 山 秀 彦
取締役執行役員 池 谷 壽 繁
常勤監査役 菅 原 正 則
社外監査役 石 川 剛
社外監査役 豊 島 絵

執行役員 井 上 博 行
執行役員 嶋 啓 明
執行役員 大 石 善 教

// 株式の状況 (平成26年5月31日現在)

発行可能株式総数 40,000,000株
発行済株式の総数 19,354,596株
株主数 7,484名
大株主

株主名	持株数	持株比率
	株	%
竹内エムアンドティ株式会社	900,000	5.25
日本スタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)	557,500	3.25
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口)	529,800	3.09
株式会社三菱東京UFJ銀行	505,920	2.95
由利和久	450,276	2.63
日本証券金融株式会社	401,600	2.34
株式会社アルミネ	391,000	2.28
村永八千代	387,076	2.26
株式会社SBI証券	320,800	1.87
竹内正明	247,000	1.44

(注) 1. 当社は、自己株式2,207,847株を保有しておりますが、上記の大株主から除いております。
2. 持株比率は、自己株式2,207,847株を控除して計算しております。

// 株主メモ

事業年度
定時株主総会
期末配当金受領株主確定日
中間配当金受領株主確定日
株主名簿管理人
(特別口座の口座管理機関)
同連絡先
(郵便物送付先)

毎年12月1日から翌年11月30日まで
2月
11月30日
5月31日 (中間配当を実施する場合)
三菱UFJ信託銀行株式会社

〒137-8081
東京都江東区東砂七丁目10番11号
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
電話 0120-232-711 (通話料無料)
電子公告により当社のホームページ
(<http://www.altech.co.jp/>) に掲載します。
ただし、事故その他やむを得ない事由により、電子公告がで
きない場合は、日本経済新聞に掲載します。

公告の方法

(ご注意)

- 株主様の住所変更、単元未満株式の買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関 (証券会社等) で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人 (三菱UFJ信託銀行) ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に登録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関 (三菱UFJ信託銀行) にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。



第39期 中間報告書

平成25年12月1日～平成26年5月31日

ALTECH
アルテック株式会社

証券コード：9972



株主の皆様へ

株主の皆様には、平素より格別のご支援・ご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

ここに第39期第2四半期連結累計期間（平成25年12月1日から平成26年5月31日まで）の当社グループの営業の概況についてご報告申し上げます。

当第2四半期連結累計期間（平成25年12月1日から平成26年5月31日まで）におけるわが国経済は、消費税引き上げに伴う景気下振れ懸念等がありましたが、政府等による経済政策や金融政策を背景に企業業績に改善の兆しが見られ、景気は緩やかな回復基調で推移しました。一方、中国をはじめとする新興国経済の減速、円安による原材料価格や電気料金の上昇リスクが残る等、依然として先行き不透明な状況で推移しました。

このような市場環境の下、当社グループは、提案型営業力の強化や新たな販路獲得に努めてまいりました結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は7,752百万円（前年同四半期比10.9%増）、営業損益は17百万円の損失（前年同四半期は36百万円の利益）、経常損益は41百万円の損失（前年同四半期は254百万円の利益）、四半期純損益は49百万円の損失（前年同四半期は7百万円の損失）となりました。

セグメント別では、商社事業については、大型機械・機器の販売がほぼ前期並み、3Dプリンタの販売が堅調に推移した結果、売上高が増加しましたが、円安の影響による仕入コストの上昇等により利益が減少いたしました。次に、プリフォーム事業については、既存取引先への拡販や新たな販路獲得等によりプリフォーム等の販売が好調で、材料価格上昇に伴うコスト増を吸収して赤字幅が縮小いたしました。その他の事業については、輸送用リサイクルプラスチックパレットの取扱い数量が低調となり売上高は減少いたしました。前期に実施した事業構造改革の効果により黒字転換いたしました。

当社グループは来年、創立40周年を迎えます。節目の年に向け、グループ一丸となって、構造改革の推進と収益力の強化を図り、企業価値の向上を目指してまいります。

株主の皆様におかれましては変わらぬご支援を賜りますよう、何卒宜しくお願い申し上げます。

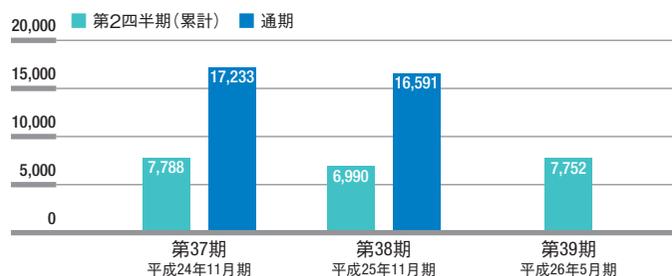


平成26年8月
代表取締役社長

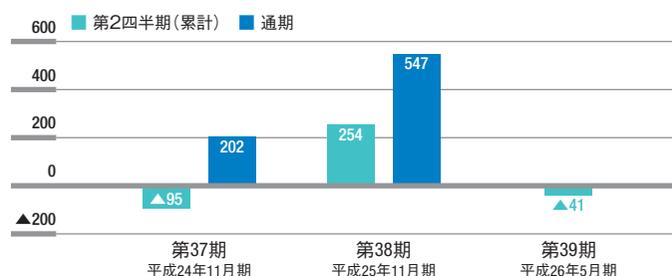
張能 徳博

連結業績ハイライト

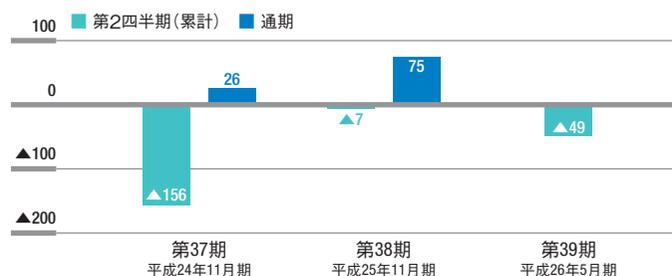
売上高（単位：百万円）



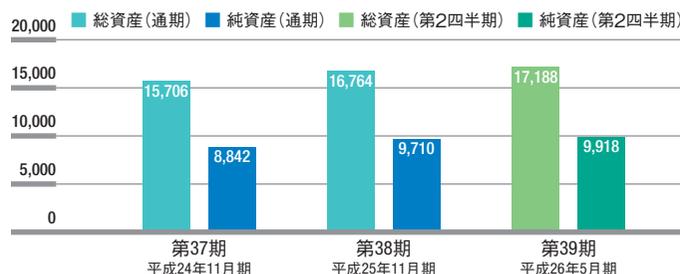
経常損益（単位：百万円）



当期純損益（単位：百万円）



総資産／純資産（単位：百万円）



トピックス

菊水酒造様様に「スマートパウチ」をご採用いただきました

フランスで主にワインの容器として瓶に代わって採用されているスマーフット カップ社製スタンディングパウチ「スマートパウチ」が、平成26年5月に新潟の菊水酒造様様の日本酒用に採用され、発売されました。（平成26年7月には全国で発売。）

この容器は、光を通さず開栓後も空気を通さないことから、美味しい生酒の風味と鮮度を損なわずに毎日少しずつ晩酌を楽しむことができます。また、冷蔵庫にちょうど収まるサイズで、飲み終えた後もパウチを小さくして捨てることができます。

容器もエコ化と消費形態に適した形へと進化しています。アルテックは今後も世界の優れたパッケージのご提供を通じて日本の食文化を豊かにしてまいります。



最近の展示会から

平成26年6月25日（水）から3日間開催されました「設計・製造ソリューション展（DMS）」にアルテックの3Dプリンタ営業課が3Dプリンタメーカーのストラタシス社と共同で出展しました。

会場では、工業用プラスチック樹脂で造形し塗装加工した自動車のフロントパーツや3種類の樹脂を複合使用できる新発売のConnex3で造形した人間頭部のシースルー模型など、3Dプリンタが試作の域を超え様々な形で使用される例をご紹介します。多くの来場者の注目を集めました。また、今回は3Dプリンタで作られたバイオリン（エレキバイオリン）を当社社員が演奏するパフォーマンスも行い、本物と遜色ない音色で来場者を驚かせました。

